

Performing Arts Meeting in Yokohama 2018

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2018

開催報告書





今年度のTPAMは、より一層、パフォーミングアーツの国際的なプラットフォームの色彩を強くした。実際に海外で仕事をしていると、「今度のTPAMでは、何を観ればいいのか？」といった質問を受けることが多くなった。

その場で商談がまとまることも重要だが、TPAMの存在によって、日本の制作者、表現者たちが世界のマーケットを意識し、徐々にそこでのプレゼンテーション能力を付け始めていることも心強い。私自身は、日本演劇史に関するレクチャーを行ったが、海外で日本人アーティストがきちんと自作や自国の文化について語る必要性を多くの聴衆に理解してもらえたのではないかと自負している。

2020年以降、単なる日本文化の発信から、本格的な協働作業の時代へと向かうなかで、日本人アーティストや制作者の意識改革の場としてもTPAMはなくてはならない場となるだろう。

平田オリザ

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 アドバイザー
劇作家／演出家／青年団 主宰



今回もまたTPAM会期中に横浜にいることはほとんどできませんでしたが、充実したプログラムだったたいへんな賑わいであったと、世界各地のほうぼうで聞いています。TPAMがすっかり国際的な存在感を確立しているのを肌で感じます。舞台芸術に関わる人々にとって、特に、現在の社会についての問いかけを国際的なプログラムを通して行うことへの関心の強い世界中の制作者にとって、TPAMは参加が必須、という認知はほぼ定着したといえるのではないのでしょうか。TPAMが今後もますます世界の舞台芸術の発展と交流に貢献するものであり続けますように。

岡田利規

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 アドバイザー
演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰



同時代の舞台芸術に取り組む国内外のプロフェッショナルに貢献するため、プログラムの構造や運営方法を模索してきたTPAMですが、アジア・フォーカスを開始した2015年からの4年間で国内からの参加者数がほぼ安定し、海外からの参加者がアジア・オセアニアを中心に微増しつつ多様化していること、プロダクションの売買にとどまらない様々な影響や成果が報告されているだけでなく、それらがTPAMの手を離れて自発的に出現・進展していること、グループ・ミーティングやTPAMフリンジのような出展型プログラムの高度な使いこなしが増えていくことなどから、現在の規模と形式は国際的プラットフォームとしての一つの回答足り得ると思われるところまでようやく来たのではないかと考えています。この規模での開催が続く予定の2020年まで、残る課題に取り組み、より充実したプログラムを展開しつつ、その後も継続可能かつ参加者の皆様にとって活用しやすく実り多い実施形態を探求していきたいと思っています。舞台芸術を支え実践する皆様の変わらぬご支援に心より御礼を申し上げます。

丸岡ひろみ

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 ディレクター

開催概要

名称	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2018 Performing Arts Meeting in Yokohama 2018
通称	TPAM in Yokohama 2018 TPAM2018
会期	2018年2月10日（土）～18日（日）
主会場	KAAT神奈川芸術劇場、BankART Studio NYK、横浜赤レンガ倉庫1号館、YCC ヨコハマ創造都市センター、Bayani's Kitchen、急な坂スタジオ、Amazon Club
主催	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2018 実行委員会（国際交流基金アジアセンター、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC - 国際舞台芸術交流センター）
協力	BankART1929、特定非営利活動法人YCC
助成	公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」（企業メセナ協議会 2021 Arts Fund）
協賛	株式会社 資生堂
後援	外務省、文化庁、神奈川県、横浜市
提携事業	横浜ダンスコレクション 2018、アジア・ドラマトゥルク・ネットワーク・サテライトシンポジウム 2018、舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）、ヨコハマアートサイト「アートサイトラウンジ vol.17」、亜女会クロニクル・プロジェクト

今年の国際舞台芸術ミーティング in 横浜は、「芸術見本市（TPAM / Tokyo Performing Arts Market）」としての東京での第1回開催（1995）から22回目、同時代的舞台芸術に取り組むプロフェッショナルを主対象と定義（2005）してから13回目、横浜に移りかつ「見本市」から「ミーティング」へ改称（2011）してから8回目、アジア・フォーカスを開始（2015）してから4回目の開催となった。

プログラムは、前回に引き続き、TPAM エクスチェンジ（プロフェッショナルの交流プログラム）、TPAM ディレクション（主催公演プログラム）、TPAM フリンジ（公募公演プログラム）の3つのカテゴリーに分け、横浜の主会場（TPAM ディレクション、TPAM エクスチェンジ）および横浜・東京の複数会場（TPAM フリンジ）で9日間に渡って展開。専門的な内容・機能に特化した一部の交流プログラムを除き、一般観客も参加可能とした。

前回は、タイの映画作家／アーティストである



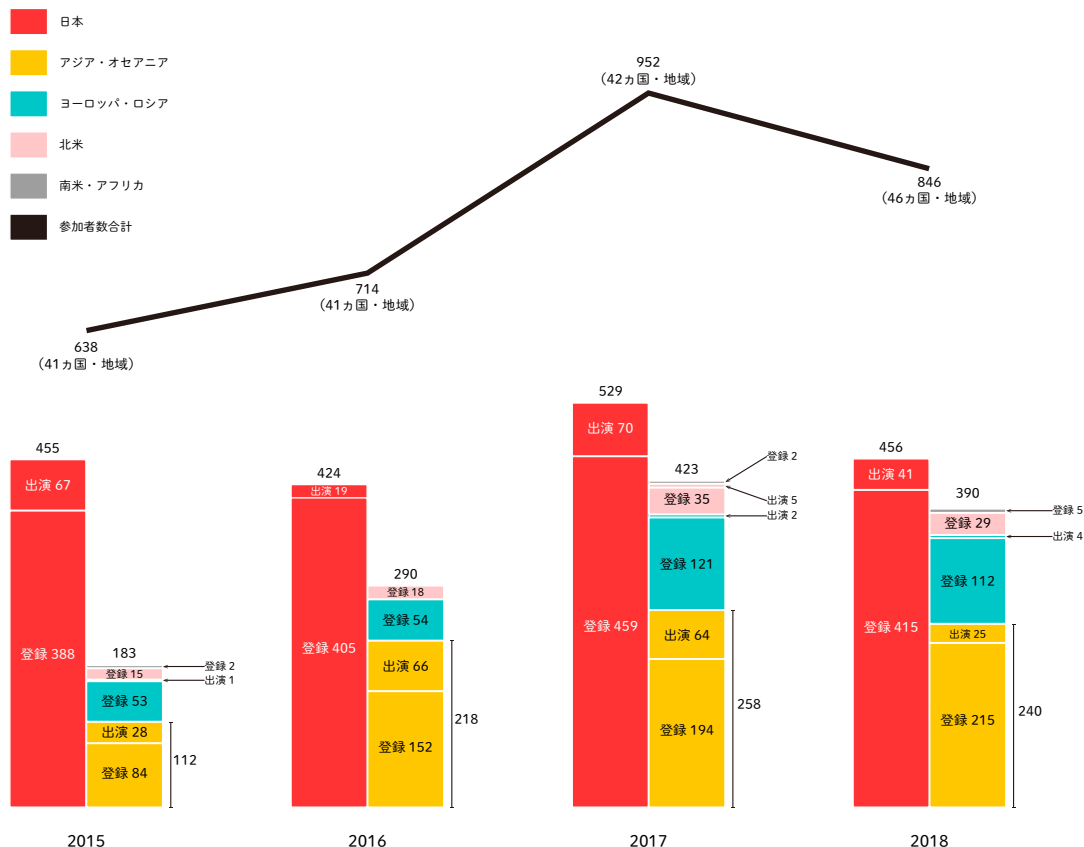
Photo by Hideo Maezawa

開催概要

	プロフェッショナル参加方法	オーディエンス参加方法
参加登録	オンライン登録（登録料 5,000円）	対象外
TPAMディレクション	プロフェッショナルレートで各演目、あるいは定額4,000円で全演目をオンライン予約	チケットかながわ（KAAT神奈川芸術劇場での上演作品のみ）、Peatixにてチケット購入
	一部のプログラムは無料/予約不要	
TPAMエクステンジ	無料（グループ・ミーティングにホスト登録する場合は別途オンライン登録料 4,000～17,000円）	無料～当日 500 円（一部のプログラムは入場不可）
TPAMフリンジ	割引などの特典つきでオンライン予約	各公演の取り扱い先にチケット購入

アピチャッポン・ウィーラセタクン初の舞台作品『フィーバー・ルーム』という大規模な作品を、ウィーラセタクンの映画上映や展示が国内で多数開催され「アピチャッポン・イヤー」とも呼ばれた年度に招聘したため、過去最大の動員を記録したが、それによる例外的な増分を除けば、プロフェッショナルの全体的な参加状況、とりわけアジア・オセアニアからの参加登録者数は、前々回・前回から概ね微増傾向にある。また、TPAM フリンジの一般観客動員数の増加が目立つが、これは入場無料の野外公演の動員数計測方法などに大きく左右される数値であり、登録数自体は2件増とほぼ昨年度と同規模である（19頁参照）。

参加登録者数

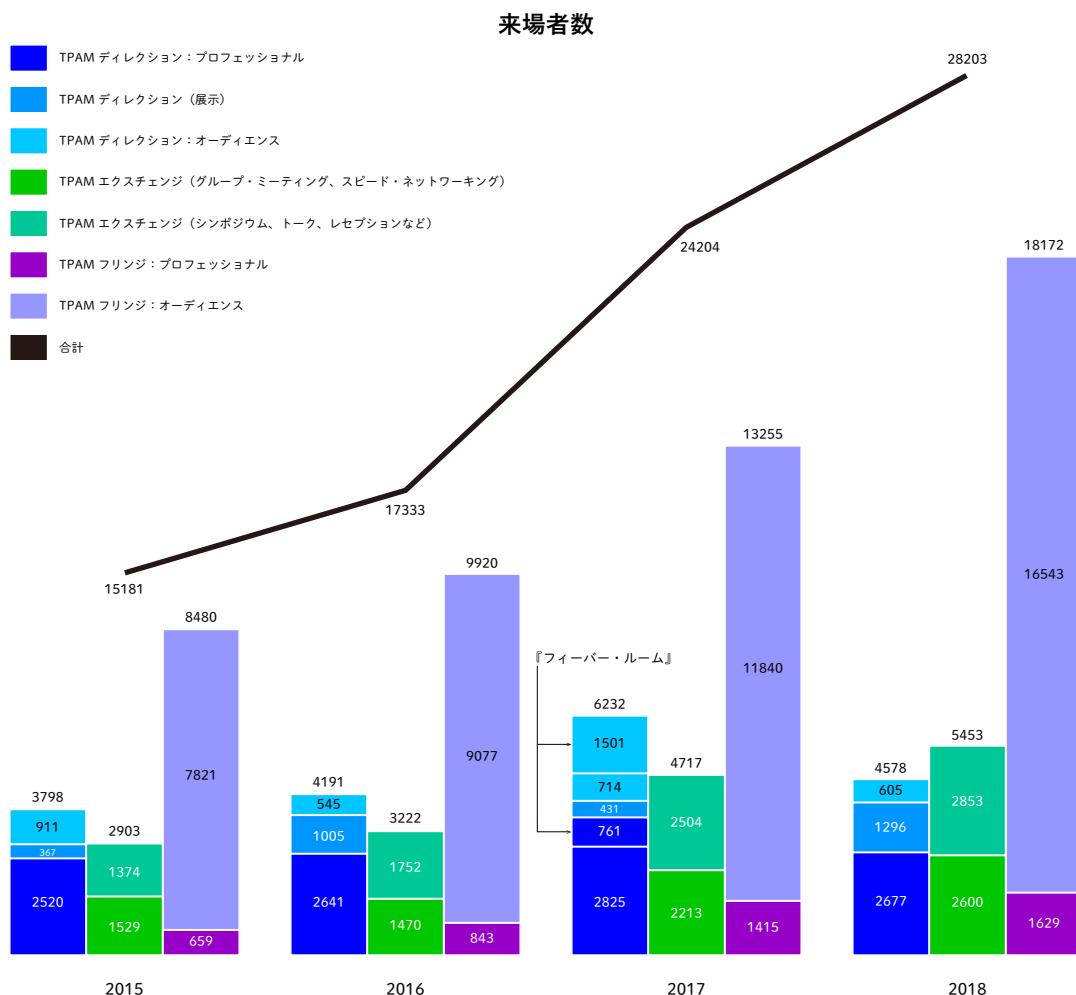


開催概要

国際交流基金アジアセンターの設立とともに開始した TPAM のアジア・フォーカスは、政府の掲げる「文化の WA (和・環・輪) プロジェクト～知り合うアジア～」に伴う、2020 年までという期限つきの予算拡大に負うところが大きいのが、であればこそ、2020 年以降にも通用する舞台芸術交流の質的向上を目指し、参加者数の微増微減にとらわれず、今しかできない実験的なプログラムに取り組んだ。

TPAM の「成果」は様々な形をとる。特に中長期的な成果については、追跡することも、TPAM の貢献度だけを抽出して評価することも難しい。また、交流プログラムが他国のプラットフォームの人事につながる場合など、インパクトは大きくても定量的な評価が難しいケースも多い。それらを丹念に解釈し数えていったところで、TPAM フリンジから「ヒット作」が 1 本出れば集計は塗り替えられてしまう。TPAM の影響力を伝えるには、集計よりケーススタディ的なアプローチが適しているかもしれない、方法を検討した上で 2020 年にまとまった形での報告を行ないたいと考えている。

各プログラムの詳細については 7 頁以降を、メディア掲載などの一覧は 23 頁以降を参照されたい。



開催概要

今回は主会場が7会場、TPAM フリンジ会場が39会場、そのうち3会場が重複しており、合計43会場での開催となった。うち「横浜会場」は28会場(神奈川県鎌倉市1会場、須賀市1会場を含む)。

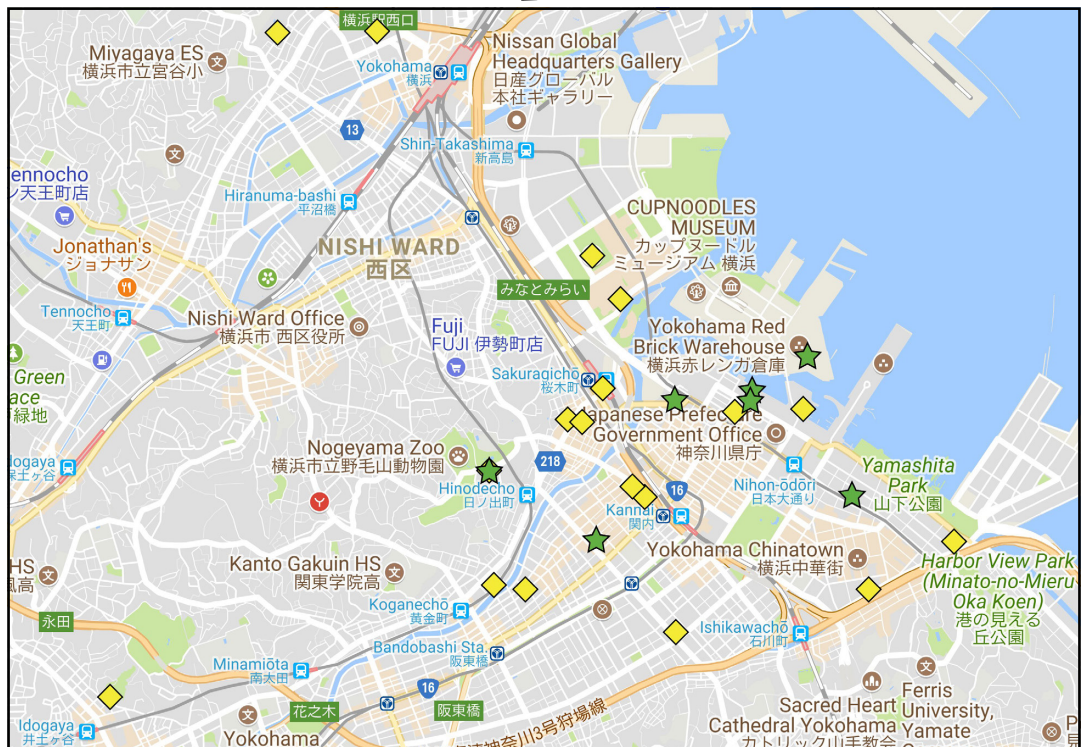
TPAM エクスチェンジの主会場として定着し親しまれてきたBankART Studio NYKが、TPAM2018開催後、2018年3月に惜しまれつつ閉館した。その機能を引き継ぐ新しい会場の開拓が次回開催までに必須である。

	2015	2016	2017	2018
横浜会場数	19	19	21	28
東京会場数	10	14	17	15
合計	29	33	38	43

*同会場内の複数のスペースが使われた場合、あるいは同会場が複数のプロジェクトに使われた場合も、1会場として集計している。なお、過去の集計方針に不統一があった。統一した結果、2015～2017の横浜会場数がTPAM2017の報告書と若干異なっている。

★ TPAM ディレクション、TPAM エクスチェンジ会場
(一部会場は TPAM フリンジでも使用)

◆ TPAM フリンジ会場



TPAMエクステンジ

TPAMの基盤を成す、プロフェッショナルの交流、情報交換、ネットワーキングのためのプログラム。今年は特に**グループ・ミーティング**（参加者が自分でテーマを提案して開催する小規模ミーティング）の登録促進・斡旋に注力し、ミーティング数は前年度の76コマから97コマへ、参加者数も1,957人から2,344人へと拡大した。約12名までの「テーブル」、約30名までの「ルーム」という従来の形式に加え、約24名までの「サロン」を新設。テーマの性質に合った規模での親密なミーティングが例年以上に好評を得た。開放空間で多くのミーティングが同時多発するが故の音響の問題に対処するため、パーティションや簡易PAを導入し一定の改善をみたが、会場であるBankART Studio NYK 閉館のため、今回は新たな会場の特性に合わせた設計が改めて必要となるだろう。また、**スピード・ネットワーキング**（フェスティバル・ディレクターなどとの1対1、10分間の予約制ミーティング）256コマ、提携事業を含めて20コマのディスカッションやトークを実施し、レセプションやパーティーなどの交流機会を設けた。グループ・ミーティング、スピード・ネットワーキング、その他各セッションのテーマ、ホスト、登壇者の一覧については10頁以降の表を参照されたい。

海外派遣団のうち、今年は**フランス芸術振興会 (ONDA)** と **CINARS (カナダ)** がグループ・ミーティング会場で、**国家文化芸術基金会 / ARTWAVE - 台湾国際アーツネットワーク** が KAAT 神奈川芸術劇場 1階のレストランでレセプションを開催し、グループ・ミーティングでのプレゼンテーションと合わせて多くのTPAM参加者の注目を集めた。国家文化芸術基金会はTPAMフリッジにも参加した（19頁で後述）。

2016年にシンガポールで設立総会を開催し、TPAM2017の場で提携事業として第2回総会を開催した**アジア・ドラマトゥルク・ネットワーク (ADN)** は、その後2017年10月に「社会的・文化的なるもののドラマトゥルギー」と題してアデレードでサテライトシンポジウムを開催。今回のTPAMでは、そのテーマをさらに押し進め、「**ドラマトゥルギーと政治的なるもの**」と題したサテライトシンポジウムを再度提携事業として開催した。5コマの公開セッションと1コマの非公開セッションにアジア7ヵ国／地域から11名、日本から6名のパネリストが登壇し、「芸術と政治」という古典的な問題を、アジアの舞台芸術のドラマトゥルギーという新しい切り口で縦横に議論した。

派遣団	国／地域	人数
フランス芸術振興会	フランス、ドイツ、ポルトガル	20
アジア・ドラマトゥルク・ネットワーク	マレーシア、シンガポール、インド、韓国、中国、香港	16
CINARS	カナダ	8
ブリティッシュ・カウンシル	英国	8
ナショナル・パフォーマンス・ネットワーク	米国	5
国家文化芸術基金会	台湾	19
台北表演芸術中心	台湾	4



アジア・ドラマトゥルク・ネットワーク・サテライトシンポジウム 2018

Courtesy of Asian Dramaturgy Network

TPAMエクステンション

記録映像がADNのウェブサイトで公開されている。その後5月（シンガポール）、9月（ジョグジャカルタ）にもミーティングを開催。研究、批評、実践の領域を横断しながらの、柔軟な思考と言説の展開が期待される。

同じく提携事業の**舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）**は、例年通りの活動報告会と会員総会に加え、国内外の文化行政をめぐるシンポジウムを2コマ実施した。「**アジアのアーツカウンシルを知る**」には、香港、台湾、韓国のアーツカウンシルあるいはそれに類する組織からゲストスピーカーを迎え、欧州モデルとの違いや国際共同の可能性を議論。「**これからの文化政策を知る・話す・考える～新・文化庁元年を迎えるにあたって～**」では、文化庁長官官房政策課から高田行紀企画調整官を迎え、文化庁が2018年度に行なう組織改革について聞くとともに質疑応答の機会を設けた。ON-PAMはその後、KYOTO EXPERIMENTとの共催によるシンポジウム「**アート業界で働く人のライフプラン～雇用・育児・ワークライフバランス～**」、ジャカルタとジョグジャカルタで開催される「**APP（Asian Producers' Platform）キャンプ2018**」へのプロデューサー派遣事業などの活動を展開している。

Photo by Hideto Maezawa



「亜女会クロニクル・プロジェクト」

故・如月小春らにより1990年代から開催され2000年代に中断した「アジア女性演劇会議」を継承・更新するため発足した**アジア女性舞台芸術会議実行委員会（亜女会）**は、「**亜女会クロニクル・プロジェクト**」をグループ・ミーティングの会場で提携事業として実験的に実施した。アジア各地における「最初の重要な女性の舞台芸術家」についてTPAM参加者に質問を投げかけ、回答が書かれた紙片を刺繍による世界地図に結びつけてゆくと、女性、舞台芸術という切り口でのアジア近代論の手掛かりがインスタレーションのようにして構築されていった。亜女会はグループ・ミーティングも開催し、日本近代初の女性劇作家と言われる長谷川時雨を紹介した。

また、横浜市地域文化サポート事業「**ヨコハマアートサイト**」が定期的で開催している「**アートサイトラウンジ**」の第17回を提携事業として実施。「**まちとアートの仲人たち**」と題し、地域とともに作品を生み出し育てる活動が注目されている現在における「**地域とアートのつなぎ手**」の役割について、具体例の紹介を交えて語った。

国際交流基金アジアセンター主催の「**Creators' Cradle Circuit — あるアイデアとして**」は、アジアの同時代舞台芸術を担う次世代育成プログラム「**Next Generation: Producing Performing Arts**」（同センター主催）の参加者によるプレゼンテーションとディスカッション。東南アジア5カ国と日本から参加した8名が、モバイル・フェスティバル「**Creators' Cradle Circuit**」のアイデアについて2時間半に渡り発表と議論を行なった。アジアの若手カルチュラル・ワーカーにTPAMのプログラムを体験してもらおう機会にもなっている。

TPAMエクステンジ

Photo by Hideto Maezawa



「共同製作のアイデア：TPAM ディレクション 2018 ディレクターからの呼びかけ」

TPAM 主催のトークセッションは4件開催。「共同製作のアイデア：TPAM ディレクション 2018 ディレクターからの呼びかけ」では、単にパートナーを募るだけでなく、新しい共同製作のあり方を模索する試みとして、恩田晃氏がフィリピンの作曲家ホセ・マセダのプロジェクトについて、ジューン・タン氏が自身の所属するファイブ・アーツ・センターのプロジェクトについて説明した。マセダのプログラムはTPAM2019で本格的に展開する予定。ファイブ・アーツ・センターの「Complete Futures of Malaysia」は、2020年までにマレーシアを「先進国」とするという、マハティールが1990年代に提唱した政策「ワワサン2020」の現在をめぐってジャンル横断的に展開しており、その最新形『バージョン2020：マレーシアの未来完成図、第3章』がTPAM2018直後に東京で開催された「シアターコモンズ'18」で紹介され、その後第4章がソウルの国立現代美術館で紹介された。「理論と実践をつなぐ：フェスティバルにおける言説プログラムとEASTAPの活動」では、2017年10月にジョゼット・フェラル教授（パリ第3大学）の主導により設立され、今後の展開を準備しているEASTAP（European Association for the Study of Theatre and Performance）を紹介。フェスティバルに学術会議を併設することで、フェスティバルのプログラミングと研究者の研究対象設定の時差を解消するとともに、観客にも批評的・分析的言説へのアクセスを開くというもので、2018年秋にパリのフェスティバル・ドートンヌに併設しての第1回開催が予定されている。近い将来にヨーロッパに限定しない展開を期待したい。「アジアのダンスネットワークを強化する」では、昨年提携事業の一つとして実施したシンポジウム「アジアにおけるダンスハウス・ネットワーク構想～European Dancehouse Network (EDN)の活動を参考に」に触発されてアジアのダンス関係者が取り組んだ「Asia Network for Dance (AND+)」を紹介。AND+はその後5月に香港で正式に発足している。また、TPAMアドバイザーの平田オリザ氏が西洋近代演劇の輸入から「現代口語演劇」の確立までの日本演劇史を凝縮して語る「光速・日本近代演劇史」を開催し、特にアジアからの参加者の高い関心を集めた。日本からアジアへのフォーカスという一方向のアプローチでなく、そのフォーカスに対する東・東南アジアからの応答、とりわけ自国・地域との比較において「日本の近代化」に向けられる視線についても今後意識してゆく必要があると思われる。



Photo by Hideto Maezawa

「光速・日本近代演劇史」

TPAMエクステンジ

プログラム		登壇者	登壇者 拠点国・地域
亜女会クロニクル・プロジェクト		-	日本
共同製作のアイデア：TPAM ディレクション 2018 ディレクターからの呼びかけ		恩田晃（サウンドアーティスト/キュレーター）、 ジューン・タン（ファイブ・アーツ・センター プロ デューサー）	米国/日本、 マレーシア
舞台芸術制作者 オープンネット ワーク (ON-PAM)	総会（会員制）、報告会	-	日本
	シンポジウム 1「アジアのアーツカ ウンシルを知る」	エミリア・ヨンギョン・イ（Korea Arts Management Service チーム・マネージャー）、セ リーン・リム（副ディレクター、戦略的計画・国際 関係担当、ナショナル・アーツ・カウンシル）、ペティ マク（香港芸術発展局 プランニング・文化交流ディ レクター）、新田幸生（インディペンデント・プロ デューサー）	韓国、シンガ ポール、香港、 台湾
	シンポジウム 2「これからの文化政 策を知る・話す・考える～新・文化 庁元年を迎えるにあたって～」	高田行紀（文化庁長官官房政策課 企画調整官）	日本
理論と実践をつなぐ：フェスティバルにおける言説プロ グラムと EASTAP の活動		クヌート・オーヴェ・アーンツェン（ベルゲン大学 言語文学美学科 演劇学教授）、スヴェン・オーゲ ・ビルケラン（BIT Teatergarasjen 芸術監督・経営 責任者）、ペア・アナニアセン（Teaterhuset Avant Garden 芸術監督・経営責任者）、内野儀（学習院女 子大学 国際文化交流学部 教授）	ノルウェー、 日本
アジア・ドラマ トウルク・ネット ワーク・サテラ イトシンポジウム 2018	ADN レポート	リム・ハウニェン（パフォーマンス作家/ドラマトウ ルク/ダンス・リサーチャー）、ロビン・ルーン（ド ラマトウルク/研究者/劇作家）、シャーリーン・ ラジェンドラ（演劇教育者/ドラマトウルク/作家）	マレーシア、 シンガポール
	ラウンドテーブル 1：アートにおけ る政治的なもの	キム・ジェリ（ドラマトウルク/ダンス理論家/成 均館大学校舞踊学科 非常勤講師）、リ・イナン（中 央戯劇学院 教授）、ホー・ツォニェン（映画作家/ ヴィジュアルアーティスト）、ロビン・ルーン	韓国、中国、 シンガポール
	パネルディスカッション：日本のド ラマトウルクにおける社会変革/ 活動	リャオ・フェイティン（サンウェイ大学 准教授）、 長島確（ドラマトウルク）、野村政之（ドラマトウ ルク/プロデューサー/【公財】沖縄県文化振興 会 チーフプログラムオフィサー/桜美林大学 非常 勤講師/舞台芸術制作者オープンネットワーク 理 事）、滝口健（ドラマトウルク/翻訳者/プロデュー サー）	マレーシア、 日本
	ワーキング・グループ：ドラマトウ ルクに関する継続的トピック	ヴィルカイン・ダール（IGNITE! コンテンポラリー ダンス・フェスティバル ディレクター）、ジャニス・ ブーン（香港演芸学院 演劇科 講師・研究プロジェ クトコーディネーター/Hong Kong Dramatists 芸 術監督）、タウフィック・ダーウィス（ドラマトウ ルク/リサーチャー/Bandung Performing Arts Forum 共同設立者/インドネシア・ダンス・フェ スティバル 共同キュレーター）、横山義志（SPAC - 静岡県舞台芸術センター 文芸部/東京芸術祭直轄 事業 ディレクター）、キム・ジェリ、齋藤啓（舞台 芸術制作者/プロデューサー/舞台芸術制作者オー プンネットワーク 理事）、ロビン・ルーン、リム・ ハウニェン	インド、香港、 インドネシア、 日本、韓国、 シンガポール、 マレーシア
	ラウンドテーブル 2：思想的リー ダーシップとしての芸術的ディレ クション	ビルキス・ヒジャス（MyDance Alliance 代表/ Rimbun Dahan ダンスプログラムディレクター）、 リンダ・マヤサリ（Cemeti-Institute for Art and Society ディレクター）、丸岡ひろみ（国際舞台芸術 ミーティング in 横浜 ディレクター）、シャーリーン・ ラジェンドラ	マレーシア、 インドネシア、 日本
ADN 非公開ミーティング		全スピーカー・オブザーバー	-

TPAMエクステンジ

プログラム	登壇者	登壇者 拠点国・地域
アジアのダンスネットワークを強化する	ジャラ・アドルフス（プロデューサー／編集者）、アナ・CY・チャン（西九文化区 ダンス・舞台芸術部門統括）、キャシー・ホン（高雄芸術センター [衛武宮] マーケティング・コミュニケーションディレクター）、小野晋司（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 チーフプロデューサー [ダンス]）、横浜赤レンガ倉庫1号館 館長）、フェイス・タン（エスブラネードシアター・オン・ザ・ベイ ダンス・演劇プログラム責任者）	インドネシア／ベルギー、香港、台湾、日本、シンガポール
Creators' Cradle Circuit — あるアイデアとして	スカール・プトゥリ・ハンダヤニ（Rumah Banjarsari ジェネラル・マネージャー）、ソー・チョン・ホン（Jog & Giggle Production 取締役）、松本千鶴（高知県立美術館企画事業課 主査）、フィー・フィー・アイン・グエン（Vintata Animation Studio 取締役兼現場責任者）、アンドレイ・ニコライ・パミントゥアン（フリンジ・マニラ ディレクター／Pineapple Lab クリエイティブ・ディレクター）、梶山由香（Slow Label プロジェクトマネージャー／「猿の演劇論」主催）、ポーンチットラー・ウォンシーサワット（RAMA Channel マーケティング・広報アシスタント・ステーション・マネージャー）、山崎健太（演劇研究・批評／演劇批評誌『紙背』編集長）	インドネシア、マレーシア、日本、ベトナム、フィリピン、タイ
光速・日本近代演劇史	平田オリザ（劇作家／演出家／青年団 主宰）	日本
ヨコハマアートサイト「アートサイトラウンジ vol.17 ～まちとアートの仲人たち」	石神夏希（ベピン結構設計 主宰）、宮永琢生（劇団ままごと プロデューサー）、宮武亜季（居間 theater / PARADISE AIR）、横井貴子（フェスティバル / トーキョー実行委員会事務局 制作・人材育成担当）	
グループ・ミーティング テーマ		ホスト拠点国・地域
クロアチア／日本 国際共同制作の実例と展望		クロアチア、日本
アジアのネットワーク／プラットフォームとの連携について		日本
東京芸術劇場のあらましと今後のビジョンについて		日本
映画と演劇の関係		韓国、ロシア
アジアのフリンジについて		日本、フィリピン、台湾
アジア女性舞台芸術会議（巫女会）		日本
杉原邦生の仕事について		日本
クラウドファンディング活用法を知る		日本
舞台芸術プロダクションのリーサーの重要性とパブリックアートスペースの運営について		インドネシア
北アイルランド：紛争後の社会における演劇とダンス		英国
MAMONAH! Improve Immersive Theatre Dance Communication Project (Body + Live Music)		イタリア
演劇クエストの野望		日本
横浜で生まれた民間のアートスペース『The CAVE』の紹介		日本
40歳以下のカルチュラルリーダー育成のための支援プログラムを始めます		日本
バンコク国際舞台芸術ミーティング2018について		タイ
現前するサウンド：新しい演劇作品と演劇体験を作り出す		台湾
Launchpad Fringe：新しいパフォーマンス・プラットフォーム		フィリピン

TPAMエキスチェンジ

グループ・ミーティング テーマ	ホスト拠点国・地域
横浜ダンスコレクション「若手振付家のための在日フランス大使館賞」受賞者報告会	フランス、日本
インドとインドネシアの支援団体	インド、インドネシア
関係のパフォーマンス：観客を巻き込む	台湾
スイスとのコラボレーションについて	スイス
Floating Bottle Project のご紹介と関わりの可能性を開く	日本
ニュージーランドからの声：ニュージーランドのインディペンデント・プロデューサーと政府支援のプログラムのご紹介	ニュージーランド
スコットランド：エジンバラ・フェスティバルとその先	英国
どのようにして持続可能なアート・プロジェクトを維持するか	ブルネイ、カンボジア
東南が北東と出会う：東アジアのコラボレーションをつなぐハブ	台湾
高齢化社会における芸術文化の役割と高齢者の芸術参加について	オーストラリア、日本
ケベック（カナダ）におけるコンテンポラリーダンスに関して	カナダ
国際交流基金の助成・フェローシップの紹介	日本
キャンピング・アジア 2019：次世代のために	台湾
ウェールズ：国際プログラムとコラボレーション・共同制作の可能性	英国
舞台芸術とメディア・ジェネレーション	カンボジア、ベトナム
ケベック（カナダ）のコンテンポラリーサーカスと、マルチ分野のアートに関して	カナダ
都市の怪談：真夏の夜の語り	台湾
オーストラリアで音楽を作る	オーストラリア
台北・コペンハーゲン — 4D BOX パフォーマンスの国際共同製作のご紹介	台湾
演劇的翻訳：翻訳の問題	タイ、フィリピン
ケベック（カナダ）の舞台芸術カンパニー紹介とレセプション	カナダ
中国・杭州 Xixi Arts Center の紹介とツアー体験談（贅沢貧乏の場合）	中国、日本
アーツカウンシル東京助成プログラムのご紹介	日本
沖縄県那覇市「アトリエ銘苺ベース」のご紹介	日本
言葉を超えて：文化横断的な演劇のクリエイションにおける共通言語	日本
イヴォ・ディミチエフの作品について	ブルガリア、ドイツ
ウェールズ：舞台芸術におけるコラボレーション、共同制作、フェスティバルの可能性	英国
「東京文化プログラム助成」「Tokyo Tokyo FESTIVAL 企画公募」	日本
現代中国の問題の社会的・政治的文脈を表現する — パペット／オブジェクト・シアターのメタフォルカルな応用が開く可能性	マカオ
ポーランドの舞台芸術シーンに起きている新しい変化	ポーランド
アートで考えてみる「あの戦争」	日本
HOTPOT 東アジア・ダンスプラットフォーム	韓国、香港、日本
Something Great について：ベルリン拠点の新しい国際的舞台芸術マネジメントオフィス	ドイツ
舞台芸術制作業と子育ての両立を考える	日本
カナダ先住民のパフォーミング・アーツ	カナダ
エジンバラ・フェスティバル・フリンジ	英国
カルチャー・リーダーシップ育成事業についての意見交換	日本

TPAMエクステンジ

グループ・ミーティング テーマ	ホスト拠点国・地域
国際共同制作（インド、シンガポール）の報告と今後のビジョン	日本
制作者の地方移住条件を考える	日本
フィンランドのダンスへの入り口	フィンランド
東京芸術祭ってなに？	日本
現代演劇における仮面とは？	日本
芸術家への直接支援：セゾン・フェロー	日本
『500 METERS』— 中国、ポーランド、ドイツによる国際共同制作	中国、ドイツ
インターチェンジブル・シティプロジェクト— デジタルアートを通して世界の扉を開く	台湾
温泉街のアーティスト・イン・レジデンス：城崎国際アートセンター（KIAC）の紹介	日本
Korea Arts Management Service のプラットフォームとプログラム	韓国
全国小劇場ネットワークについて	日本
“JEJAK- 旅 TABI EXCHANGE” について	マレーシア、インドネシア、日本
セゾン・アーティスト・イン・レジデンスと国際プロジェクト支援	日本
戦争に翻弄されたローザの生き様を世界へ	日本
ラオスとベトナムにおけるダンスの新しいトレンド	ラオス、ベトナム
シアターコモンズ：2018-2020 のコンセプトとプログラミング	日本
ダンス・レジデンス@豊橋：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT の紹介	日本
WHS の国際コラボレーション	フィンランド
フランス、ドイツ、ポルトガルのコンテンポラリー・アーティストのご紹介	フランス、ドイツ、ポルトガル
ACT Shanghai International Theatre Festival のご紹介	中国
第 20 回台北芸術祭：ASSEMBLY	台湾
『Puzzle Creature』	英国
コンテンポラリー・パフォーマンスのための ADAM – Asia Discovers Asia Meeting	台湾
東方の伝統的な輪廻の歴史観：同時代的寓話の創造	台湾
国際共同制作と活動報告会	日本
現代サーカスの日本ネットワーク構築と世界ネットワークとの連携について	日本
ADAM – Asia Discovers Asia Meeting for Contemporary Performance：アーティスト・ラボ 2018 の公募	台湾
フェスティバル / トーキョーのご紹介	日本
滞在制作（アーティスト・イン・レジデンス）を演劇化する：『青に会う』の紹介	日本
スピード・ネットワーキング ホスト	ホスト拠点国・地域
タン・フクエン（台北芸術祭 キュレーター）	シンガポール／台湾
矢作勝義（穂の国とよはし芸術劇場 芸術文化プロデューサー）	日本
アニッコー・ラーチ（SIN Arts and Culture Center 国際担当）	ハンガリー
ポー・チエ・チェン（National Performing Arts Center – National Taichung Theater プログラミング・アシリエート）	台湾
ヤーコーボー・マーケズ・ヘレラー（Lado Business Entertainment ディレクター）	メキシコ
ハートリー・ケンプ（C venues 芸術監督）	英国

TPAMエクステンジ

スピード・ネットワークング ホスト	ホスト拠点国・地域
秦野五花 & 遠山香織 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂 プロデューサー & 事業担当)	日本
塩谷陽子 (Japan Society 芸術監督)	米国
吉田雄一郎 (城崎国際アートセンター プログラム・ディレクター)	日本
タリー・ピアス (Performance Space プログラムマネージャー)	オーストラリア
バサント・エルバドレーウィー (Tamasi Performing Arts Collective プログラミングオフィサー)	エジプト
ジョン・ガンヒ (ソウル・マージナル演劇祭 事務局長)	韓国
宮内奈緒 (りっかりっか*フェスタ アシスタントプロデューサー)	日本
キャシー・ホン (高雄芸術センター [衛武宮] マーケティング・コミュニケーションディレクター)	台湾
岡本あきこ (フリーランス・キュレーター)	ドイツ
里見有祐 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 広報 ACY グループ)	日本
河合千佳 (フェスティバル/トーキョー 副ディレクター)	日本
藤田直義 (高知県立美術館 館長)	日本
ホワーン・ジアダイ (Shanghai Dramatic Arts Centre 国際担当 / ACT Shanghai International Theatre Festival プログラムディレクター)	中国
高萩宏 (東京芸術劇場 副館長)	日本
ノーマン・アーマー (PuSh International Performing Arts Festival 芸術監督)	カナダ
ローモールビッチ・リシー (Bonn Phum ディレクター)	カンボジア
ハンナ・ファース (チャプター・アーツ・センター 芸術監督)	英国
リチャード・ウェイクリー (ベルファスト・インターナショナル・アーツ・フェスティバル 芸術監督)	英国
横山義志 (SPAC - 静岡県舞台芸術センター 文芸部 / 東京芸術祭直轄事業 ディレクター)	日本
アグニエズカー・ソスノースカー (Ujazdowski Castle Centre for Contemporary Art キュレーター・リサーチャー)	ポーランド
スヴェン・オーゲ・ビルケラン (BIT Teatergarasjen 芸術監督・経営責任者)	ノルウェー
サンソッシュ・マノハー (Prakriti Foundation プログラム・コーディネーター)	インド
佐藤泰紀 (STスポット 館長)	日本
イ・ジョンホ (SIDance 芸術監督)	韓国
ポール・ケインズ (ナショナル・ダンス・カンパニー・ウェールズ 経営責任者)	英国
カリー・シアレイ (ナショナル・シアター・ウェールズ 芸術監督)	英国

TPAMディレクション

TPAMが「マーケット」から「ミーティング」に改称した2011年に、TPAMディレクションは、日本の若手舞台芸術制作者をディレクターとして招き（任期は原則3年間）、集客ノルマに拘束されずにプログラミングの実験を行なう機会を提供する場として開始した。それは同時に、国内のインディペンデントな舞台芸術シーンを海外のプレゼンターに紹介する機会ともなり、ユニークな作品やプロジェクトが自由にプログラムされた結果、TPAMが「マーケット」であった2010年までのショーケースを超える国際的関心を集め、逆説的に「成約」数の増加にもつながった。

アジア・フォーカスを打ち出したTPAM2015で初めて招いた海外のディレクターが、シンガポール出身で当時バンコクを拠点にフリーランスで活動、現在は台北芸術祭の芸術監督を務めるタン・フクエン氏である。フクエン氏のディレクションは、初年度からすでに、インドネシアのサイト・スペシフィックなプロジェクトや、ヨーロッパと日本を巻き込んだフィリピンのワーク・イン・プログレスなどを含む、ダイナミックでトランスナショナルな内容であった。また、同年は日本人ディレクターも、タイのピチュ・クランチェン（横堀ふみディレクション）や同じくタイのデモクレイジー・シアターと範宙遊泳のコラボレーション（野村政之ディレクション）をプログラムし、TPAM自体としても「TPAM コプロダクション」という別枠でアジアとの国際共同製作に乗り出すなど、主催公演プログラム全体の方向性が大きく変化した（それに伴い、主に海外の文化芸術団体の主催による招聘公演を紹介していた「インターナショナル・ショーケース」を終了した）。

その後TPAM2016でコ・ジュヨン氏（プロデューサー、韓国）と恩田晃氏（サウンド・アーティスト/キュレーター、米国）、今回ジューン・タン氏（ファイブ・アーツ・センター プロデューサー、マレーシア）とマックス＝フィリップ・アッシュェンブレンナー氏（ルールトリエンナーレ ヘッド・ドラマトゥルク、ドイツ）をディレクターに迎え、さらに「TPAM コプロダクション」の路線も吸収したTPAMディレクションは、質量ともに充実し、国内外のプロフェッショナルだけでなく、舞台芸術の最新動向に関心の高い一般観客の認知も高めることになった。一方、海外拠点のディレクターによるプログラムや国際共同製作については日本での制作業務の大半を事務局が引き受けることになるため、ディレクターの役割は「制作者」というより「キュレーター」あるいは「プログラマー」に近いものになったと言える。当初のTPAMディレクションの主旨から変化しているが、いずれにせよプログラミングの国際化は不可避的・不可逆的である。今後ディレクター制度をどう再編してゆくかは、アジア・フォーカスに区切りがつく2020年までの大きな課題のひとつとなるだろう。

昨年度に横堀ふみ氏が任期を終え、唯一の日本拠点のディレクターとなった加藤弓奈氏（急な坂スタジオ ディレクター）は、任期最終年度となった今回、TPAMディレクションの枠にあえてTPAM フリンジに登録した自主企画を持ち込み「急な坂ショーケース」を実施した。自らがディレクターを務める急な坂スタジオを会場に、横浜にゆかりの深い日本の若手を、カジュアルなスタジオ・ショーイングの形式で、記録映像の上映や展示、トークも交えて紹介。アーティストとプレゼンター双方の視点からTPAMの柔軟な活用法を提案した。このアイデアは次回以降のプログラムに反映させていきたい。

アッシュェンブレンナー氏がプログラムしたフィリピンの2作品、**ライトニング・スタディーズ：圧迫・抗争・汚染翻訳センター**（レナン・ラル＝アン）『**パサ・パサ**』と**ジェシカ・ザフラ + ラヤ・**

TPAMディレクション

マーティン『1565年から陽気さを輸出し続けて：世界征服プロジェクト』に呼応する形で、内容に関連のある日本の作品を2作紹介した。『群衆の音像（仮）』は、コンタクト・ゴンゾ（大阪）が温めてきたマニラのメタルコアバンド「スカイチャーチ」とのコラボレーション。『ソウルネスレス』は、2001年から日本を拠点とするテリ・テムリッツによる上映＝パフォーマンスで、フィリピンでのリサーチに基づいたエピソードを含む。ヘヴィメタル、ハードコアといった米国発祥の商業音楽の東南アジアにおけるねじれた導入に関する考察を伴う前者は、フィリピンのスペインからの独立に続く米国による再領土化に関するリサーチ＝展示である『パサ・パサ』への、胴体を残して上半身のみ空を飛ぶ吸血鬼「マナナンガル」をメタファーにフィリピン人外国労働者の疎外を考察する

後者は、あえてフィリピン人外国労働者の「成功」例を強調し悲劇的ステレオタイプをユーモラスに解体する『1565年から陽気さを輸出し続けて』への、それぞれ応答になることを狙った。

恩田氏は1年間をフィリピンの作曲家ホセ・マセダに関するリサーチに費やし、マセダに詳しい高橋悠治氏を招いて、その中間報告としてのトークを開催した。翌年度に本格的なマセダ・プログラムを組む予定である。

ディレクターを介さずに紹介したもう1つの日本の作品が梅田哲也『インターンシップ』。劇場の機構そのものを主役としてそれらを「演奏／上演」するコンサート／パフォーマンスであり、機構の精密さでは日本有数のKAAT 神奈川芸術劇場ホールを会場とし、圧倒的な反スペクタクルと

なった。朝日新聞に劇評が掲載され、その後アジア各地で建設中／建設予定の大規模な劇場が招聘を検討しているという。

コ氏は本人の希望で隔年のディレクション実施となり、TPAM2016に続いて2年目となった今回は、レズビアン的女性俳優が自身の周縁化された境遇を語るモノローグで、上演ごとにその会場名がタイトルになるク・ジャヘ／シアター・ディフィニトリ『BankART Studio NYK kawamata Hall』、全ての役を女性が演じる韓国の大衆演劇「ヨソン・グック（女性国劇）」の男性役に取り組む女性俳優と日本のゲイコーラスのコラボレーションとなったサイレン・チョン・ウニョン『変則のファンタジー_日本版』の2作品を紹介。いずれも、LGBT運動やジェンダー論の文脈というよりは個人史に立脚した作品で、韓国における「女性」の「役者」という周縁化された存在の「大きな訴えもなければ、とても小さくてよく聞こえない声」（ディレクターズノートより）を日本の文脈に接続する上演となった。

ここまで名を挙げたほとんどが、ヴィジュアル・アーティスト、リサーチャー、小説家、映画作家、DJ／電子音楽家、あるいはジャンル同定不能な、「舞台芸術」という枠におさまらないアーティストたちである。近年舞台芸術とは異なる分野のアーティストが舞台芸術に取り組む例がアジ

©Rody Shimazaki



『インターンシップ』

TPAMディレクション

アで増加し、委嘱やプログラミング、あるいは表現形態の興味深い実例が出現していることを受け、昨年度のTPAMディレクションで、映画作家アピチャップン・ウィーラセタクンによる舞台作品『フォーバー・ルーム』を紹介した。今年のTPAMディレクションはそのような領域横断的・逸脱的アプローチをさらに展開したと言えるが、上演形態のユニークさは、コンセプトの重層性や意外性と一致したとき真価を発揮すると言ってよさそうである。

例えば気鋭のサウンド・アーティスト、サムソン・ヤンによる『カノン』は、ベトナム難民問題に関して香港で広く共有されている記憶、それに連なるイメージとサウンドをめぐって複雑に構成されたコンセプトを、音響兵器（LRAD）を用いて展開するインスタレーション／パフォーマンス。休みなしで1日6～7時間、3日間に渡ってアーティスト本人がパフォーマンスを敢行した。

ヴィジュアル・アーツとデザインをバックグラウンドとするチョイ・カファイは、土方巽の霊をイタコとモーションキャプチャー技術を通して召喚しての死者による振付作品という異色のプロジェクト『存在の耐えられない暗黒』をワーク・イン・プログレスとして試演。大きな関心を呼び、追加公演を行なった。今後デュッセルドルフ、ウィーン、京都で完成版が上演されることになっている。

アッシュンブレンナー氏によるもう1本のプログラム『一頭あるいは数頭のトラ』は、ヴィジュアル・アーティスト／映画作家ホー・ツニエンによる、東南アジア植民地史の象徴としての「トラ」に関する10年を超えるリサーチの結晶とも言うべき傑作。向かい合った2枚のスクリーン、マルチチャンネルオーディオ、インドネシアの影絵人形劇「ワヤン・クリット」を巧みに組み合わせたインスタレーションで、美術、ヴィジュアル・アーツ関係者からも極めて高い評価を得、『美術手帖』に特集が組まれた。

タン氏は、あえて作品を持ち込まず、ファイブ・アーツ・センターのプロデューサーとしてTPAM2016で共同製作したマーク・テ『バリ』をマレーシアの社会的・歴史的な文脈から離れて世界各地のフェスティバルで上演した経験、その手応えと違和感から着想した連続シンポジウム「プログラミングのポリティクス」を開催。「プラットフォーム」「プレッシャー」「パティシペーショ

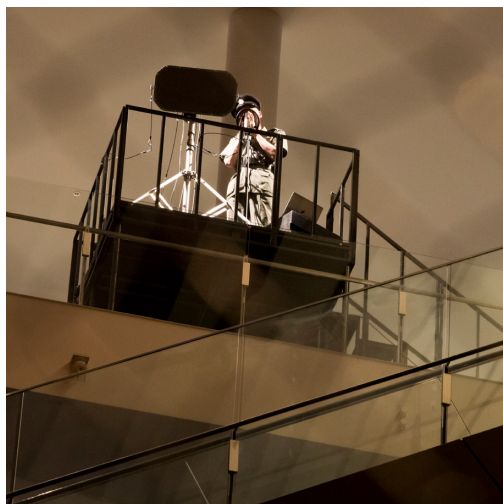


Photo by Hideto Maezawa

『カノン』



Photo by Hideto Maezawa

『一頭あるいは数頭のトラ』

TPAMディレクション

ン」という3つの「P」による3部構成とし、それぞれにインドとドイツのフェスティバルディレクター、タイとマレーシアの若手プレゼンター／アーティスト、スペインとマレーシアのアーティスト／アクティヴィストを招いて実験的ディスカッションを展開した。

2015年に開始したりサーチ／インタビュー映像展示「アジアン・アーティスト・インタビュー」では、昨年度までに東南アジア6カ国8都市で収録した15本に、今年度ホーチミンで活動する3名のインタビューを追加、さらに日本／東南アジア演劇交流の先達としての津野海太郎氏に取材。すべての映像をYouTubeのプレイリストとして公開している。

アーティスト／カンパニー	演目	会場	拠点国・地域
サムソン・ヤン	カノン	KAAT 神奈川芸術劇場 アトリウム	香港
コンタクト・ゴンゾ featuring スカイチャーチ	群衆の音像 (仮)	BankART Studio NYK 3B & 3C Galleries	日本／フィリピン
シャンカル・ヴェンカテーシュワラン、マーティン・デネワル	プログラミングのポリティクス：プラットフォーム	BankART Studio NYK 2B Gallery	インド、ドイツ
ワイラ・アマタタンマチャド、ナディーラ・ラジドゥ	プログラミングのポリティクス：プレッシャー		タイ、マレーシア
シモーナ・レヴィ、ウン・セクサン	プログラミングのポリティクス：パティシパーション		イタリア、マレーシア
ホー・ツーニエン	一頭あるいは数頭のトラ	KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ	シンガポール
ライトニング・スタディーズ：圧迫・抗争・汚染翻訳センター (CTCCCs)	バサ・バサ		フィリピン
梅田哲也	インターナシッパ	KAAT 神奈川芸術劇場 ホール	日本
恩田晃 + 高橋悠治	ホセ・マセダについて	BankART Studio NYK 2B Gallery	米国／日本
チョイ・カファイ	存在の耐えられない暗黒(ワーク・イン・プログレス)	KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ	シンガポール／ドイツ
ク・ジャヘ × シアター、ディフィニトリ	BankART Studio NYK kawamata Hall	BankART Studio NYK kawamata Hall	韓国
オフィスマウンテン、福留麻里、橋本清、TOKYO ELECTROCK STAIRS、範宙遊泳	急な坂ショーケース	急な坂スタジオ	日本
テーリ・テムリツ	ソウルネスレス	BankART Studio NYK kawamata Hall	米国／日本
ジェシカ・ザフラ + ラヤ・マーティン	1565年から陽気さを輸出し続けて：世界征服プロジェクト	KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ / Bayani's Kitchen	フィリピン
サイレン・チョン・ウニョン	変則のファンタジー_ 日本版	KAAT 神奈川芸術劇場 ホール	韓国
チェイ・チャンケトヤ、ダラ・フォット & ポントゥーン・フォン、ドナ・ミランダ、エリソン・タン・ユーヤン、フィトリ・スティヤニンシ、グエン・トウイ・ハン、ゴ・タイン・フーン、ジェコ・シオンポ、JK アニコチェ、津野海太郎、クウワイ・サムナン、ルー・ズハン、マーク・テ、ナディーラ・ラジドゥ、ナオミ・スリカンディ、グエン・ズイ・タイン、ルリー・シャバラ、タイ・フォン、ヴ・ドゥック・トアン	アジアン・アーティスト・インタビュー	BankART Studio NYK 2A Gallery	カンボジア、フィリピン、シンガポール、インドネシア、ベトナム、日本、マレーシア



公募プログラムとしての位置付けをより明確にするため、昨年度「TPAMショーケース」から「TPAMフリンジ」へと改称し、今年はTPAMフリンジ専用のロゴを新たにデザインした。また、TPAMに参加するプロフェッショナルには従来通り登録公演の情報をプログラム冊子やインフォメーションデスクで提供しつつ、一般観客にはいわゆるフリンジ・フェスティバルとしても認知されること

を狙って、これまで主催プログラムのデザインを踏襲していたTPAMフリンジのチラシデザインを大きく変更した。

今年の登録数は昨年から2件増とほぼ同数だが、関東圏外に拠点を置く団体（福岡、愛媛、高知、大阪、京都、金沢、岩手）が多く参加した。また、海外団体の登録に関しては、香港、マカオのプロデューサーが、異なるアーティスト／カンパニーの作品でここ数年複数回参加している。また、台湾の**国家文化芸術基金会**は若葉町ウォーフの全館を使つての複合プログラム『**冬の夜ひとり**の従業員が』で参加し好評を得た。公演にかかる費用や旅費、制作面でのサポートは提供していないにも関わらず、関東圏外からの登録増加、海外からの継続的・戦略的参加に繋がっていることは、TPAMに集まるプロフェッショナルの質と参加を通して得られるネットワークへの評価と期待が国内外で高まっている結果と考えられる。

	2015	2016	2017	2018
登録数	35	36	53	55
海外登録数	0	2	8	8
演目数 公演数	51 演目 143 公演	46 演目 219 公演	60 演目 243 公演	72 演目 260 公演

個人／会場のキュレーションにより複数の団体に参加する企画やフェスティバルなどを登録可能にすることで、「フリンジ」という枠組みをさらに拡大、多様化することを狙い昨年スタートした「オーガナイザー登録」枠では、**STスポット**や**blanClass**など横浜市で独自の活動を展開している会場と連携したことでユニークな企画が増加した。チケットシステムや情報整理の方法に関してはいまだ改善が必要であり、より使いやすい枠組みになるよう今後もオーガナイザーや参加団体との連携を図っていききたい。また、「**横浜ダンスコレクション2018**」のプログラムを提携事業として紹介した。昨年と今年のグループ・ミーティングでも、横浜ダンスコレクションが韓国、香港と共同で立ち上げる「**HOTPOT 東アジア・ダンスプラットフォーム**」の構想を紹介するセッションを持っている。その動向も注視しつつ今後も提携を継続していききたい。

TPAMのオンラインシステムを通したフリンジ登録公演の予約数のうち、約7割が海外からのTPAM参加者による予約である。海外のキュレーターやフェスティバル・ディレクターが、主催プログラムでは網羅できない国内の幅広い作品を短期間でリサーチし発見する貴重な機会となっている。また、国内団体の多くが海外公演やツアーなど国際的な活動への契機を目的にフリンジに参加しており、英語字幕や英語資料配布などの重要性の認識が浸透してきている。言語的・文化的共同の枠を超えて自分の作品を見せたいという姿勢が、短期的な「成果」だけでなく、創作の質そのものにもポジティブな影響を与えることが期待される。

TPAM フリンジ

ASUNAによる『100キーボード - 干渉音の分布とモアレ共鳴 -』は、今回のTPAMフリンジ参加をきっかけに7ヵ国13都市のツアーが決定し、その後もオファーが絶えないようである。そのような可視性の高い「成果」から、上演そのものではなく台本が海外の演出家に取り上げられるなどの間接的な「成果」、あるいはTPAMフリンジでの出会いが国際コラボレーションへ発展するなどの予想外の展開、そして先述した創作の質そのものへのフィードバックまで、TPAMフリンジのインパクトは、事務局のコントロールを超えて自動生成している。それをどのように調査、記録、可視化してゆくかが今後の大きな課題のひとつである。



『100 キーボード - 干渉音の分布とモアレ共鳴 -』

©Minoru Sato-m/s

アーティスト/カンパニー/ オーガナイザー/プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域
ダンス 30s!!! シアターコレクション	プロジェクト大山『大山曼陀羅 -オオヤマダラー～東京バー ジョン～』	こまばアゴラ劇場	日本
	MOKK『f』		
Super Theater 小池博史ブリッジプロ ジェクト	2030 世界漂流	吉祥寺シアター	
康本雅子	子ら子ら	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F	
GRINDERE-MAN	SEE SAW (シー・ソー)	シアタートラム	
mimimal『遺書を書くための2つの小 品』	a sample of an ill—語尾の病	新宿眼科画廊スペース O	
	a sample of a well—脈	南軽井沢稲葉邸	
人形劇団望ノ社	Shadow Kingdom ~ 影の王国	ブーク人形劇場	
S Tスポットセレクション	福留麻里/村社祐太郎『隙間を埋 めるのにプロッコリーを使うま で』	S Tスポット	
	Q『毛美子不毛話』		
	Q『妖精の問題』		
blanClass Anthology #3	高山玲子『ゴーストライター』	blanClass	
	Whales + けのび『予兆 名絵画探 偵 3』		
	前後(高嶋晋一 + No Collective + 神村恵)『Post Future Perfect (未来完了以後)』		
M.M.S.T	地下室の手記	横浜美術館レクチャーホール	
ゲッコバレード	リンドバークたちの飛行	旧里見淳邸(西御門サロネ)	
フルタ丸	虎の館	Archishop Library&Cafe	
劇団 TremendousCircus	サロメ	シアターシャイン	

TPAM フリンジ

アーティスト／カンパニー／ オーガナイザー／プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域
横浜ダンスコレクション 2018	青空ダンス	横浜赤レンガ倉庫 屋外広場	日本
	コンペティション I	横浜赤レンガ倉庫 1号館 3F ホール	日本、韓国、他
	Aokid × 橋本匠 『we are son of sun!』	象の鼻テラス	日本
	ジュレミー・ベランガール 渋谷慶一郎 ジュスティース・エマール 『Parade for the End of the World』	横浜赤レンガ倉庫 1号館 3F ホール	フランス / 日本
	寺田みさこ 『三部作』	横浜にぎわい座 のげシャーレ	日本
le 9 juin	聞き憶えのある名前	Design Festa Gallery East102	
日置あつし / プロダクション 航路延長	『ボンバステイカ -bombástica-』 『彼岸の桜』『極楽鳥の森』	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F	
藤原ちから (BricolaQ)	演劇クエスト・横濱パサージュ編	観光案内所 (JR 桜木町駅南改札前)、象の鼻テラス等	
日本美術サウンドアーカイブ	高見澤文雄 《柵を越えた羊の数》 (1974年) 再制作	南青山アート & スペースここから	
	「日本美術サウンドアーカイブ」プレゼンテーション		
大城真 / 川口貴大	大城真 & 川口貴大によるデュオパフォーマンス / インスタレーション	BankART Studio NYK kawamata Hall	
シルクロード能楽会	沙櫛女 (サロメ)	長者スタジオ	
鮭スベアレ	コンテンツラリー能『ハムレット』	The CAVE	
StageNoMore	弾幕時代! Lite	mass×mass 関内フューチャーセンター	
富士山アネット	巡礼	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F	日本
Hugh Cho / Kenneth Sze / TS Studio	Hong Kong Wave: Beat The Tiger Tonight	BankART Studio NYK 3B Gallery	香港
Against Again Troupe Tao CHIANG + Yenting TSENG (Kappa) HUANG Ding Yun	冬の夜ひとりの従業員が	若葉町 WHARF	台湾
ASUNA (アスナ)	100 キーボード - 干渉音の分布とモアレ共鳴 -	The CAVE	日本
In search for new theatre language — Throughout the 20 years of Grzegorz Jarzyna's TR Warszawa Theatre to its latest — The World Premiere of "G.E.N VR"	G.E.N 360	mass×mass 関内フューチャーセンター	ポーランド
	No Matter How Hard We Tried	BankART Studio NYK 201 Gallery	
	Tropical Craze		
世田谷シルク	跡 2018	BUKATSUDO HALL	日本
Daniel Belton and Good Company Arts	Theatre of Light	The CAVE	ニュージーランド
急な坂ショーケース	オフィスマウンテン 『ドッグマン ノーライフ』	急な坂スタジオ	日本
	TOKYO ELECTROCK STAIRS 『Post Post Memories / short version』		
	ブルーノプロデュース 『マリファナの害について』		

TPAM フリンジ

アーティスト／カンパニー／ オーガナイザー／プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域	
急な坂ショーケース	福留麻里『そこで眠る、これを起こす、ここに起こされる』記録映像上映・コンセプトノート展示	急な坂スタジオ	日本	
	範宙遊泳『その夜と友達』記録映像上映			
浦裕幸 + 金沢健一 + 井上郷子、 Suidobashi Chamber Ensemble	作曲作品に向き合う日本の即興音楽シーンの現在	Ftarri		
インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響 - Kyo	第5回公演 オープンリハーサル (平原慎太郎)	野毛 Hana * Hana		
アンチボディーズコレクティブ	アンチボディーズ コレクティブ パフォーマンス	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F		
梅田宏明 × 東京藝術大学	Synesensory Embodiment Project ワークインプログレス公演	東京藝術大学 Arts & Science LAB. 4階 球形ホール		
N ₂	Tab.3『雲路と氷床』	The CAVE		
革命アイドル暴走ちゃん	萌え萌え♡ハリケーン	横浜人形の家 あかいくつ劇場		
篠田千明	ZOO	BUoY 北千住アートセンター		タイ
平原慎太郎 / OrganWorks	よるのち	BankART Studio NYK 3C Gallery		日本
ふたりっこプロデュース	風の強い日に	THE HALL YOKOHAMA		
Gwen Rakotovoao + Rafael Alvarez / BODYBUILDERS	ESPERANTO / IN THE RANGE OF A WAVE	BUKATSUDO HALL		フランス / ポルトガル
C o . 山田うん	七つの大罪	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F		日本
カワサキアリス	My Tyl, Mytyl - 舞・散 / 満	The CAVE		
	Heed my plea - 駈込み訴え			
MIRA	回 - [T]orque	Earth+ gallery		
譜面絵画	牛乳とハチミツ、ゆれて三日月を喰みる	貞昌院		
Water Singers & Rolling Puppets Alternative Theatre	Picturesque 2.0	BankART Studio NYK kawamata Hall	マカオ	
	Made in Macau 2.0			
東京タンバリン	お点前ちょうだいいたします	品川区立品川歴史館内「書院」	日本	
村山公一 / パッチワークス	「Q → P」(クーの不可逆反応にローは目覚める)	mass×mass 関内フューチャーセンター		
Doukyusei.	おんなのこが終わる日。	飯島商店		
岡田智代	Parade	若葉町 WHARF		
国際ダンス交流プロジェクト (Odori-Dawns-Dance)	Niwa-Gardd-Garden	BankART Studio NYK 3B Gallery	英国 / 日本	
うんなま	search and destroy	花まる学習会王子小劇場	日本	
スタジオアーキタンツ	ARCHITANZ 2018	新国立劇場 小劇場		
シガール姉妹	おやすまなさい	黄金町 八番館		
Théâtre MUIBO	ジャータカ ~世界はくるくる廻ってる~	The CAVE		
Mr'Scot	SHIRUKU@Y	長者スタジオ		

掲載媒体一覧

新聞	掲載媒体名	掲載日 / 号	内容など
1	東洋経済日報 文化面	2018/1/12	催事概要を紹介
2	産経新聞文化面	2018/1/28	催事概要を紹介
3	読売新聞 夕刊 11 面	2018/1/30	催事概要を紹介
4	しんぶん赤旗 9 面	2018/2/2	催事概要を紹介
5	The Japan Times 12 面	2018/2/9	ディレクター丸岡インタビュー
6	毎日新聞 夕刊 文化面	2018/2/21	『群衆の音像（仮）』劇評
7	朝日新聞 夕刊	2018/3/10	『インターンシップ』劇評
8	公明新聞	2018/3/14	岸正人氏エッセイにて TPAM を紹介
雑誌	掲載媒体名	掲載日 / 号	内容など
1	家主と地主	11 月号	フリンジ会場募集の告知
2	マグカルイベントカレンダー	冬号	情報掲載
3	ミレア vol.68	1/19 発行	情報掲載
4	BankARTNEWS	1-3 月号	情報掲載
5	SALUS	2 月号	情報掲載
6	The Wire	2 月号	情報掲載
7	地域創造レター	2 月号	情報掲載
8	神奈川芸術プレス Vol.140	2-3 月号	情報掲載
9	BEST STAGE	3 月号	TPAM プログラム紹介記事
10	美術手帖	5 月号	『一頭あるいは数頭のトラ』特集
11	季刊 JPL	No.41	TPAM 特集（エクスチェンジレポート、丸岡インタビュー）
12	BEYOND	春号	サイレン・チョン・ウニョン インタビュー
ラジオ	番組名	放送月日	内容など
1	FM おだわら「KAAT インフォメーション」	2018/1/21	TPAM2018 紹介
2	代官山アートストリート	2018/1/22	『1565 年から陽気さを輸出し続けて：世界征服プロジェクト』紹介
3	NHK 横浜「横浜サウンド☆クルーズ」	2018/2/6	TPAM2018 紹介 ディレクター丸岡出演
4	FM ヨコハマ「Lovely Day」	2018/2/7	TPAM2018 紹介 ディレクター丸岡出演
5	NHK 横浜「横浜サウンド☆クルーズ」	2018/2/20	TPAM2018 に言及
6	Resonance FM	2018/3/30	TPAM フリンジ公演録音を放送
ウェブ	掲載媒体名	掲載日 / 号	内容など
1	European Dancehouse Network	2017/5/26	TPAM2017 エクスチェンジ参加のレポート記事
2	国際交流基金アジアセンター『Features』	2017/7/3	アピチャッポン氏インタビュー記事
3	国際交流基金アジアセンター『Features』	2017/7/18	タナボン・ウィルンハグン氏インタビュー記事
4	CINRA.NET	2017/8/1	フリンジ参加登録開始告知
5	気になる話題ニュースセレクト	2017/8/1	CINRA.NET 記事転載
6	SWINGBY	2017/8/1	CINRA.NET 記事転載
7	YAHOO! ニュース	2017/8/1	CINRA.NET 記事転載
8	livedoor NEWS	2017/8/1	CINRA.NET 記事転載
9	excite news	2017/8/1	CINRA.NET 記事転載

掲載媒体一覧

10	舞台制作 PLUS	2017/8/10	フリンジ参加登録開始告知
11	マグカル.net	2017/9/19	情報掲載
12	全国賃貸住宅新聞	2017/9/28	フリンジ会場募集告知
13	みなとみらい 21 公式ウェブサイト	2017/11/17	情報掲載
14	共同通信 PR ワイヤー	2017/11/29	リリース転載
15	AFP BB news	2017/11/29	リリース転載
16	Fresheye ニュース	2017/11/29	リリース転載
17	Google ニュース	2017/11/29	リリース転載
18	HANOI QUOTE	2017/11/29	リリース転載
19	47NEWS	2017/11/29	リリース転載
20	茨城新聞クロスアイ	2017/11/29	リリース転載
21	茨城新聞クロスアイ	2017/11/29	リリース転載
22	VNR.ch	2017/11/29	リリース転載
23	宅ふぁいる便	2017/11/29	リリース転載
24	J-CAST ニュース	2017/11/29	リリース転載
25	SHIKOKU NEWS (四国新聞)	2017/11/29	リリース転載
26	伊勢新聞	2017/11/29	リリース転載
27	高知新聞	2017/11/29	リリース転載
28	徳島新聞 WEB	2017/11/29	リリース転載
29	千葉日報オンライン	2017/11/29	リリース転載
30	Impress Watch Headline	2017/11/29	リリース転載
31	Response (レスポンス)	2017/11/29	リリース転載
32	AGARA 紀伊民報	2017/11/29	リリース転載
33	インターネットコム	2017/11/29	リリース転載
34	DietClub (ダイエットクラブ)	2017/11/29	リリース転載
35	SANSPO.COM	2017/11/29	リリース転載
36	ジョルダンニュース!	2017/11/29	リリース転載
37	minyu-net (福島民友)	2017/11/29	リリース転載
38	ZAKZAK	2017/11/29	リリース転載
39	VNR.ch	2017/11/29	リリース転載
40	RBB TODAY	2017/11/29	リリース転載
41	SankeiBiz	2017/11/29	リリース転載
42	MIYANICHI e PRESS (宮崎日日新聞)	2017/11/29	リリース転載
43	毎日新聞	2017/11/29	リリース転載
44	下野新聞 SOON	2017/11/29	リリース転載
45	新潟日報モア	2017/11/29	リリース転載
46	京都新聞	2017/11/29	リリース転載
47	やまがたニュースオンライン (山形新聞)	2017/11/29	リリース転載
48	MANTANWEB	2017/11/29	リリース転載
49	週刊エコノミスト	2017/11/29	リリース転載

掲載媒体一覧

50	東京パーゲンマニア	2017/11/29	リリース転載
51	沖縄タイムスプラス	2017/11/29	リリース転載
52	福井新聞 ONLINE	2017/11/29	リリース転載
53	週刊女性 PRIME	2017/11/29	リリース転載
54	StartHome	2017/11/29	リリース転載
55	Jタウンネット 東京都	2017/11/29	リリース転載
56	さきがけ on The Web (秋田魁新報)	2017/11/29	リリース転載
57	山梨日日新聞	2017/11/29	リリース転載
58	Asahi Shimbun Digital & M	2017/11/29	リリース転載
59	河北新報 ONLINE NEWS	2017/11/29	リリース転載
60	上毛新聞ニュース	2017/11/29	リリース転載
61	AFP BBNews	2017/11/29	リリース転載
62	デーリー東北新聞社	2017/11/29	リリース転載
63	株式会社共同通信社	2017/11/29	リリース転載
64	SEO TOOLS ニュース	2017/11/29	リリース転載
65	Infoseek 楽天 NEWS	2017/11/29	リリース転載
66	excite ニュース	2017/11/29	リリース転載
67	ZDNet Japan	2017/11/29	リリース転載
68	CNET Japan	2017/11/29	リリース転載
69	共同通信デジタル	2017/11/29	リリース転載
70	奈良新聞	2017/11/30	リリース転載
71	CINRA.NET	2017/11/30	情報掲載
72	ネタリか編集部	2017/11/30	CINRA.NET 記事転載
73	Yahoo! ニュース	2017/11/30	CINRA.NET 記事転載
74	ニコニコニュース	2017/11/30	CINRA.NET 記事転載
75	livedoor NEWS	2017/11/30	CINRA.NET 記事転載
76	ステージナタリー	2017/11/30	情報掲載
77	演劇業界あんでな	2017/11/30	ステージナタリー記事転載
78	mixi ニュース	2017/12/1	CINRA.NET 記事転載
79	イベントキャスト	2017/12/2	CINRA.NET 記事転載
80	エントレ	2017/12/4	フリンジ『Q→P』情報掲載
81	ステージナタリー	2017/12/4	フリンジ『子ら子ら』情報掲載
82	ステージナタリー	2017/12/5	フリンジ『Q→P』情報掲載
83	MSN	2017/12/5	アジアからメディアカルチャーを発信する総合イベント『MeCA』が開催
84	ナタリー	2017/12/6	フリンジ『演劇クエスト』情報掲載
85	ナタリー	2017/12/7	情報掲載
86	Infoseek 楽天 NEWS	2017/12/12	リリース転載
87	OKGuide	2017/12/12	リリース転載
88	ジョルダンニュース!	2017/12/12	リリース転載

掲載媒体一覧

89	ORICON NEWS	2017/12/12	リリース転載
90	読売新聞 (YOMIURI ONLINE)	2017/12/12	リリース転載
91	産経ニュース	2017/12/12	リリース転載
92	JOSHI+	2017/12/12	リリース転載
93	iza (イザ!)	2017/12/12	リリース転載
94	@DIME アットダイム	2017/12/12	リリース転載
95	eltha (エルザ)	2017/12/12	リリース転載
96	MarkeZine (マーケジン)	2017/12/12	リリース転載
97	BEST TIMES (ベストタイムズ)	2017/12/12	リリース転載
98	とれまが	2017/12/12	リリース転載
99	STRAIGHT PRESS	2017/12/12	リリース転載
100	CREA WEB	2017/12/12	リリース転載
101	Traicy (トライシー)	2017/12/12	リリース転載
102	日刊工業新聞 電子版	2017/12/12	リリース転載
103	ダイヤモンド・オンライン	2017/12/12	リリース転載
104	JBpress (日本ビジネスプレス)	2017/12/12	リリース転載
105	マピオンニュース	2017/12/12	リリース転載
106	東洋経済オンライン	2017/12/12	リリース転載
107	現代ビジネス	2017/12/12	リリース転載
108	PRESIDENT Online	2017/12/12	リリース転載
109	時事ドットコム	2017/12/12	リリース転載
110	@nifty ビジネス	2017/12/12	リリース転載
111	SEOTOOLS	2017/12/12	リリース転載
112	BIGLOBE ニュース	2017/12/12	リリース転載
113	ウレぴあ総研	2017/12/12	リリース転載
114	エキサイトニュース	2017/12/12	リリース転載
115	Infoseek ニュース	2017/12/12	リリース転載
116	暮らしニスタ	2017/12/12	リリース転載
117	30min. サンゼロミニッツ	2017/12/12	リリース転載
118	Cube ニュース	2017/12/12	リリース転載
119	財経新聞	2017/12/12	リリース転載
120	朝日新聞デジタル & M	2017/12/12	リリース転載
121	PR TIMES	2017/12/12	リリース転載
122	美術手帖	2017/12/24	情報掲載
123	舞台制作 PLUS	2017/12/25	TPAM インターン募集情報
124	演劇業界あんでな	2017/12/25	TPAM インターン募集情報
125	RA	2017/12/26	情報掲載
126	ステージナタリー	2017/12/29	FRINGE 『ダンス 30s!!!』 情報掲載
127	ステージナタリー	2017/12/31	FRINGE 『虎の館』 情報掲載
128	ステージナタリー	2018/1/1	FRINGE 『Shadow Kingdom』 情報掲載

掲載媒体一覧

129	ステージナタリー	2018/1/2	FRINGE『サロメ』情報掲載
130	ステージナタリー	2018/1/3	FRINGE blanClass プログラム情報掲載
131	ステージナタリー	2018/1/3	FRINGE『おやすみなさい』情報掲載
132	ステージナタリー	2018/1/4	FRINGE『リンドパークたちの飛行』情報掲載
133	ステージナタリー	2018/1/4	FRINGE『萌え萌え♡ハリケーン』情報掲載
134	ステージナタリー	2018/1/4	FRINGE『地下室の手記』情報掲載
135	ステージナタリー	2018/1/5	FRINGE『跡 2018』情報掲載
136	ステージナタリー	2018/1/6	FRINGE『お点前ちょうだいいたします』情報掲載
137	ステージナタリー	2018/1/9	FRINGE『聞き覚えのある名前』情報掲載
138	ヨコハマアート・ナビ	2018/1/9	情報掲載
139	WEB FANZINE POPSCENE	2018/1/9	リリース転載
140	ライブハウスドットコム	2018/1/9	リリース転載
141	ORICON NEWS	2018/1/9	リリース転載
142	iza (イザ!)	2018/1/9	リリース転載
143	OKMusic	2018/1/9	リリース転載
144	MarkeZine (マーケジン)	2018/1/9	リリース転載
145	東洋経済オンライン	2018/1/9	リリース転載
146	マピオンニュース	2018/1/9	リリース転載
147	日刊工業新聞 電子版	2018/1/9	リリース転載
148	PRESIDENT Online	2018/1/9	リリース転載
149	産経ニュース	2018/1/9	リリース転載
150	JBpress (日本ビジネスプレス)	2018/1/9	リリース転載
151	フレッシュアイ	2018/1/9	リリース転載
152	BEST TIMES (ベストタイムズ)	2018/1/9	リリース転載
153	エキサイトニュース	2018/1/9	リリース転載
154	BIGLOBE ニュース	2018/1/9	リリース転載
155	ウレぴあ総研	2018/1/9	リリース転載
156	SEOTOOLS	2018/1/9	リリース転載
157	とれまが	2018/1/9	リリース転載
158	OKWAVE Guide	2018/1/9	リリース転載
159	STRAIGHT PRESS	2018/1/9	リリース転載
160	シネマカフェ	2018/1/9	リリース転載
161	おたくま経済新聞	2018/1/9	リリース転載
162	読売新聞 (YOMIURI ONLINE)	2018/1/9	リリース転載
163	CREA WEB	2018/1/9	リリース転載
164	財経新聞	2018/1/9	リリース転載
165	Cube ニュース	2018/1/9	リリース転載
166	JOSHI+	2018/1/9	リリース転載
167	Traicy (トライシー)	2018/1/9	リリース転載
168	ジョルダンニュース!	2018/1/9	リリース転載

掲載媒体一覧

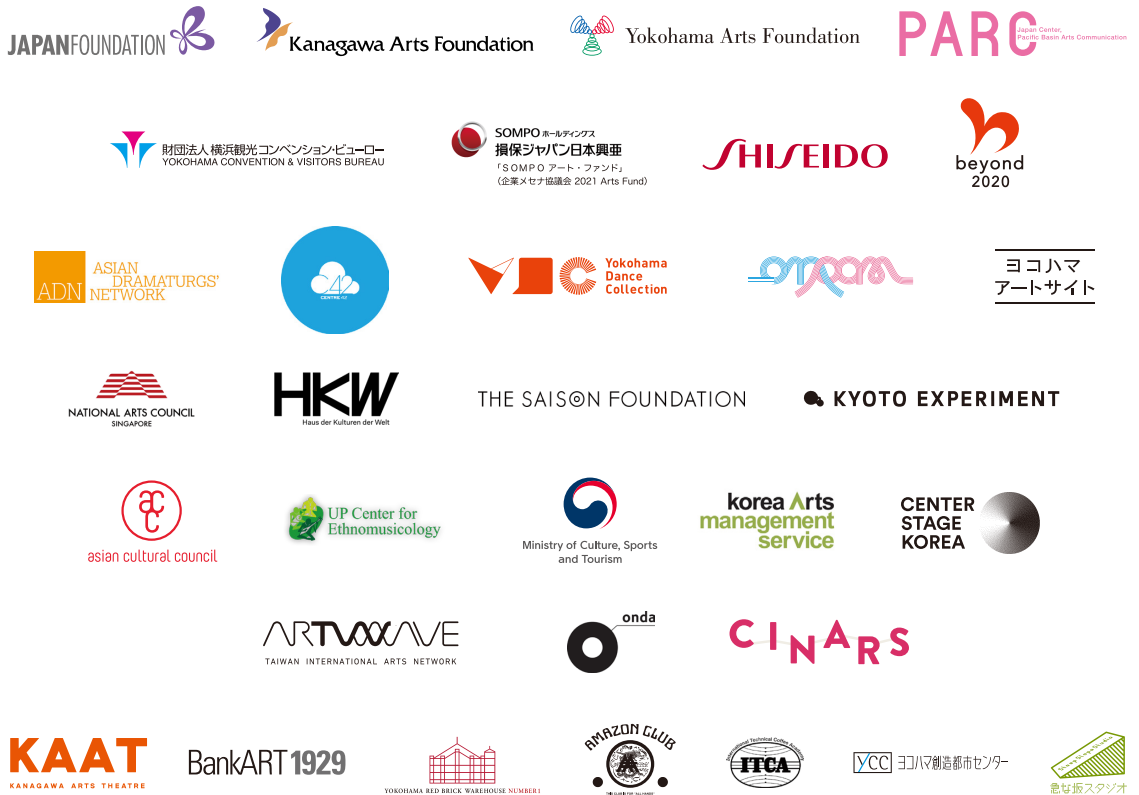
169	時事ドットコム	2018/1/9	リリース転載
170	@DIME アットタイム	2018/1/9	リリース転載
171	@nifty ビジネス	2018/1/9	リリース転載
172	RBBTODAY	2018/1/9	リリース転載
173	現代ビジネス	2018/1/9	リリース転載
174	ダイヤモンド・オンライン	2018/1/9	リリース転載
175	eltha (エルザ)	2018/1/9	リリース転載
176	30min. サンゼロミニッツ	2018/1/9	リリース転載
177	ハピママ*	2018/1/9	リリース転載
178	暮らしニスタ	2018/1/9	リリース転載
179	Infoseek ニュース	2018/1/9	リリース転載
180	朝日新聞デジタル& M	2018/1/9	リリース転載
181	PR TIMES	2018/1/9	リリース転載
182	ナタリー	2018/1/9	FRINGE『ZOO』情報掲載
183	演劇交差点	2018/1/10	TPAM2018 ボランティアスタッフ募集
184	YAHOO! ニュース	2018/1/11	FRINGE 横浜ダンスコレクション関連記事
185	ステージナタリー	2018/1/12	FRINGE『牛乳とハチミツ、ゆれて三日月を喰みる』情報掲載
186	ステージナタリー	2018/1/12	FRINGE『Solo Dance 2018』情報掲載
187	Time Out Tokyo	2018/1/15	情報掲載
188	マグカル .net	2018/1/16	FRINGE S T スポットセレクション情報掲載
189	マグカル .net	2018/1/16	FRINGE S T スポットセレクション情報掲載
190	ステージナタリー	2018/1/16	FRINGE『ハムレット』情報掲載
191	ステージナタリー	2018/1/16	FRINGE『Parade』情報掲載
192	ステージナタリー	2018/1/16	FRINGE ANTIBODIES Collective 情報掲載
193	ステージナタリー	2018/1/17	FRINGE『Synesensory Embodiment Project』情報掲載
194	ステージナタリー	2018/1/17	FRINGE『よるのち』情報掲載
195	CINRA.NET	2018/1/23	TPAM ディレクター マックス=フィリップ・アッシュンブレナー氏インタビュー記事
196	Québec	2018/1/26	CINARS の TPAM 参加とレセプション開催の告知
197	創造都市横浜	2018/1/26	梅田哲也氏インタビュー
198	ステージナタリー	2018/1/29	FRINGE『雲路と氷床』情報掲載
199	ステージナタリー	2018/2/6	FRINGE カワサキアリス情報掲載
200	ステージナタリー	2018/2/6	FRINGE『沙壇女』情報掲載
201	ステージナタリー	2018/2/7	『急な坂ショーケース』情報掲載
202	フレッシュアイ	2018/2/8	リリース転載
203	JBpress (日本ビジネスプレス)	2018/2/8	リリース転載
204	JOSHI+	2018/2/8	リリース転載
205	ORICON NEWS	2018/2/8	リリース転載
206	PRESIDENT Online	2018/2/8	リリース転載
207	日刊工業新聞 電子版	2018/2/8	リリース転載

掲載媒体一覧

208	マピオンニュース	2018/2/8	リリース転載
209	読売新聞 (YOMIURI ONLINE)	2018/2/8	リリース転載
210	おたくま経済新聞	2018/2/8	リリース転載
211	ジョルダンニュース!	2018/2/8	リリース転載
212	STRAIGHT PRESS	2018/2/8	リリース転載
213	music.jp ニュース	2018/2/8	リリース転載
214	STREET JACK	2018/2/8	リリース転載
215	ダイヤモンド・オンライン	2018/2/8	リリース転載
216	産経ニュース	2018/2/8	リリース転載
217	MarkeZine (マーケジン)	2018/2/8	リリース転載
218	OSDN Magazine	2018/2/8	リリース転載
219	NewsCafe	2018/2/8	リリース転載
220	@nifty ビジネス	2018/2/8	リリース転載
221	ZDNet Japan	2018/2/8	リリース転載
222	RBBTODAY	2018/2/8	リリース転載
223	時事ドットコム	2018/2/8	リリース転載
224	Infoseek ニュース	2018/2/8	リリース転載
225	とれまが	2018/2/8	リリース転載
226	暮らしニスタ	2018/2/8	リリース転載
227	CNET JAPAN	2018/2/8	リリース転載
228	iza (イザ!)	2018/2/8	リリース転載
229	eltha (エルザ)	2018/2/8	リリース転載
230	BIGLOBE ニュース	2018/2/8	リリース転載
231	BEST TIMES (ベストタイムズ)	2018/2/8	リリース転載
232	エキサイトニュース	2018/2/8	リリース転載
233	SEOTOOLS	2018/2/8	リリース転載
234	東洋経済オンライン	2018/2/8	リリース転載
235	Traicy (トライシー)	2018/2/8	リリース転載
236	@DIME アットダイム	2018/2/8	リリース転載
237	CREA WEB	2018/2/8	リリース転載
238	財経新聞	2018/2/8	リリース転載
239	ニコニコニュース	2018/2/8	リリース転載
240	Cube ニュース	2018/2/8	リリース転載
241	朝日新聞デジタル & M	2018/2/8	リリース転載
242	30min. サンゼロミニッツ	2018/2/8	リリース転載
243	ハビママ*	2018/2/8	リリース転載
244	ウレぴあ総研	2018/2/8	リリース転載
245	PR TIMES	2018/2/8	リリース転載
246	ダンススタジオ R	2018/2/8	TPAM フリンジ紹介記事
247	The Japan Times	2018/2/8	TPAM 概要紹介記事

掲載媒体一覧

248	マグカル.net	2018/2/8	フリンジ『地下室の手記』情報掲載
249	ART IT	2018/2/9	TPAM 概要紹介記事
250	Borneo Bulletin	2018/2/10	TPAM 参加報告
251	新網新聞網	2018/2/13	TPAM 参加報告
252	中央廣播電臺	2018/2/13	TPAM 参加報告
253	YCC ヨコハマ創造都市センター	2018/2/14	外部イベントとして TPAM 紹介
254	e-teatr.pl	2018/2/17	Yokohama. Premiera "G.E.N. VR" Jarzyny na Międzynarodowych Spotkaniach Sztuk Performatywnych TPAM 2018
255	しのぶの演劇レビュー	2018/2/17	ON-PAM シンポジウム レビュー記事
256	台北駐日経済文化代表処	2018/2/19	TPAM 参加報告
257	Québec	2018/2/19	TPAM 参加報告
258	演劇最強論-ing	2018/2/21	藤原ちから氏による TPAM レポート
259	TheTheatreTimes	2018/2/22	TPAM's Magic Happens In Front Of And Behind The Curtain
260	artscape	2018/3/1	『一頭あるいは数頭のトラ』劇評
261	artscape	2018/3/1	フリンジ『冬の夜ひとりの従業員が』劇評
262	artscape	2018/3/1	フリンジ『演劇クエスト・横濱バサージュ編』劇評
263	RA Japan	2018/3/3	フリンジ ANTIBODIES Collective 劇評
264	artscape	2018/3/15	『インターンシップ』劇評
265	artscape	2018/3/15	『存在の耐えられない暗黒』劇評
266	artscape	2018/3/15	『BankART Studio NYK kawamata Hall』劇評
267	girlsArtalk	2018/3/15	TPAM アフターレポート
268	湖釣的肉骨茶	2018/3/20	TPAM アフターレポート
269	Экрани сцена	2018/3/20	TPAM アフターレポート
270	CULTURE.PL		TR ワルシャワ劇団 @TPAM2018
271	ASIA-EUROPE		情報掲載
272	Asian Dramaturgs' Network		アジア・ドラマトゥルク・ネットワーク サテライトシンポジウム 2018 告知
273	freie theater		情報掲載
274	ダンプレ		フリンジ『風の強い日に』紹介
275	The Japan Foundation Asia Center, Vientiane (JFAC-VT)		ຍິດສະພາວະເຂົ້າຮ່ວມ TPAM2018 (ຜູ້ທີ 1)
広告	掲載媒体名	掲載日 / 号	内容など
1	国際演劇年間 2017		広告掲載
2	PAMS プログラム		広告掲載
3	横浜ダンスコレクション ウェブサイト		広告掲載
4	APAM メルマガ		広告掲載
5	APAM プログラム		広告掲載
6	CINARS メルマガ		広告掲載
7	CINARS プログラム		広告掲載
8	WOMEX ウェブサイト		広告掲載



国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2018は、KAAT神奈川芸術劇場、BankART Studio NYK、横浜赤レンガ倉庫1号館、YCC ヨコハマ創造都市センター、Bayani's Kitchen、急な坂スタジオ、Amazon Clubを主会場に、BankART1929、特定非営利活動法人YCCの協力、公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、損保ジャパン日本興亜「SOMPOアート・ファンド」（企業メセナ協議会 2021 Arts Fund）の助成、株式会社 資生堂の協賛、外務省、文化庁、神奈川県、横浜市の後援を受け、横浜ダンスコレクション2018、アジア・ドラマトゥルク・ネットワーク・サテライトシンポジウム2018、舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）、ヨコハマアートサイト「アートサイトラウンジ vol.17」、垂女会クロニクル・プロジェクトを提携事業として開催されました。各プログラムは、公益財団法人セゾン文化財団、韓国文化体育観光部、韓国芸術経営支援センター、センターステージ・コリア、tanzhaus nrw、KYOTO EXPERIMENT、アジア・カルチュラル・カウンシル、フィリピン大学民族音楽学研究所、急な坂スタジオ、世界文化の家、ナショナル・アーツ・カウンシル・シンガポール、センター42、フランス芸術振興会、CINARS、国家文化芸術基金会／ARTWAVE－台湾国際アーツネットワーク、ITCAから共催、助成、共同製作などの形で支援を受けて実施されました。

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2018 開催報告書

発行日：2019年5月20日

編集・発行：国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局

© 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2018 実行委員会

www.tpam.or.jp



国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局
(PARC - 国際舞台芸術交流センター)
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 3-1-2 サウスビル 3F
TEL 03-5724-4660 FAX 03-5724-4661

One or Several Tigers (2017) by Ho Tzu Nyen, courtesy of the artist